

令和5年度第1回石狩市学校給食センター運営委員会 会議録

【開催日時】 令和5年11月10日(金) 18時30分～19時55分

【会 場】 石狩市学校給食センター会議室

【出席委員】 佐藤学委員、中村健太委員、丸山美沙子委員、青山司委員、岩崎修委員、梅木亮子委員、高橋克典委員、百々瀬いづみ委員、石田しづえ委員、多田真弓委員

【傍聴者数】 1名

【事務局】 佐々木教育長、蛭谷生涯学習部長、高石学校給食センター長、吉田厚田学校給食センター主幹、西山給食担当主査、石倉厚田学校給食センター給食担当主査、齊藤主任、宮原主任管理栄養士、牧野栄養教諭、阿部栄養教諭、中村栄養教諭

【会議次第】 別紙のとおり

【会議録】

◎開会前

「1. 教育長挨拶」

○（高石センター長）

本日はご多忙の中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

開会に先立ち、石狩市教育委員会教育長の佐々木隆哉よりご挨拶申し上げます。

○（佐々木教育長）

皆様こんばんは。教育長の佐々木と申します。よろしくお願ひ申し上げます。

夜の時間、あまり天気も良くない中、ご出席いただきましてありがとうございます。

毎年、最初の委員会においてご挨拶をさせていただいておりますが、気が付けばもう11月で、今年も残すところ2ヶ月となりますが、市役所では新年度予算の編成に入っているところです。給食につきましてはご存じのとおり、鳥インフルエンザで卵が手に入らない、夏の猛暑で野菜が育たないといったほか、円安やコロナの5類移行に伴う経済活動の急速な回復などもあり、食材費や燃料費が上がり続けているという状況でございます。本日はお手元の資料にありますように、給食事業の運営状況についてご説明し、ご意見をいただく他に、給食費の適正な水準について諮問をさせていただく予定でございます。

2年前の当運営委員会からの答申において、今後は2年を目途に給食費の改定の要否について検討する必要があるとの答申を受けたことありますが、令和4年に給食費を改定して以来、食材費が上がり続けているという状況を踏まえる必要があります。

現状は国の物価高騰対策の交付金を活用して、給食費、家庭の負担は増やさないようにしておりますが、それはつまり1食あたりの原価と給食費との間に乖離が生じているということになります。

先日、国の新たな経済対策が発表され、その中では物価高騰対策として給食費にも何らかの対策が講じられる見込とありますが、内容がまだ不明であります。

一方、新年度の予算に向けた検討をしなければならない時期に来ており、運営委員の皆様方には、今の物価上昇を踏まえた給食費の適正な水準がどのあたりかについて、ご議論いただきたいと考えております。

給食費は安いに越したことはないとの考え方もあるかもしれませんが、子どもたちにきちんとした給食を提供するためには、それなりの費用をいただかなければなりませんので、どのあたりにバランスを求めるのかという議論になるのかと考えております。それと同時に、適正な水準についてお答えをいただいた上で、この先、国からの交付金があれば、それを充てた上で実際の給食費を設定していくことになるであろうと想定しております。

あらためまして、本日お集まりいただきました皆様方に、現在の物価上昇等を踏まえた適正な水準、あるべき姿についてご議論いただきたく、限られた時間内にはなりますが、忌憚のないご意見をいただければと存じます。

今回、新しく委員に就任される方もいらっしゃいますが、ご不明な点は事務局から説明させていただきます。以上、今年度初回の委員会にあたっての主旨説明としてご挨拶させていただきました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

「2. 委嘱状交付」

○（高石センター長）

つづきまして、「2. 委嘱状交付」につきまして、本年から委嘱させていただく委員の方につきましては、あらかじめ机上に委嘱状を用意させていただいておりますので、これをもって委嘱状の交付とさせていただきますと存じます。

「3. 委員紹介」

次に、「3. 委員紹介」です。

本日は今年度初めての委員会でございます。令和5年度から委員となりました方もいらっしゃいますので、恐れ入りますが着席順に自己紹介をお願いいたします。

それでは、青山委員から時計回りをお願いいたします。

～各委員自己紹介～

青山委員、岩崎委員、梅木委員、高橋委員、多田委員、丸山委員、中村委員、佐藤委員、石田委員、百々瀬委員

○（高石センター長）

ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

続きまして、事務局の紹介をいたします。

私は厚田学校給食センターと石狩市学校給食センターのセンター長を兼任しております高石と申します。よろしくお願いいたします。

また、本日は学校で先生の立場であり、かつ給食センターで調理の指導や献立の作成を行っている栄養教諭も出席しておりますので、後ほどご挨拶をさせていただきます。

～事務局職員・栄養教諭紹介～

佐々木教育長、蛸谷部長、高石センター長、（厚田）吉田主幹、西山主査、
宮原主任管理栄養士、齊藤主任、牧野栄養教諭、阿部栄養教諭、中村栄養教諭

◎開会

○（高石センター長）

それでは、これより「令和5年度第1回石狩市学校給食センター運営委員会」を開会します。

当委員会の委員任期は2年間となっており、令和4年度から5年度までとなっております。百々瀬副委員長は昨年度から継続となりますが、石山委員長が令和4年度で退任されましたことから、石狩市学校給食センター運営委員会施行規則第4条第4項の規定に基づき、百々瀬副委員長にその職務を代行していただき、議事の進行をお願いいたします。

「1. 委員長の選任」

○（百々瀬副委員長）

只今ご紹介いただきました、副委員長をしております、札幌医療大学の百々瀬です。委員長選任まで議事を進行させていただきます。

本日、秋田谷委員、吉本委員から所用のため欠席されるとのご連絡をいただいております。委員数は全員で12名です。現時点で委員の過半数が出席しており、本日の委員会が成立していることを報告します。

それでは、次第の1「委員長の選任」です。

石山委員長が退任されましたので、令和5年度における委員長について、立候補される方は挙手をお願いします。

（各委員）～挙手なし～

立候補がいらっしゃらないようですので、委員長の選任については互選で行いたいと思いますが、自薦他薦、いずれでも構いませんのでご意見はありますか。

(各委員) ～推薦等なし～

特になければ、私の意見で僭越ですが、教職員を長く勤められており、給食現場のことを長く見てこられている双葉小学校の青山委員にお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

(各委員) ～「異議なし」～

○ (百々瀬副委員長)

それでは、委員長に青山委員を選任いたします。よろしくお願い申し上げます。ここから先の議事進行は、青山委員長にお願いします。

○ (青山委員長)

委員長にご指名いただきました、双葉小学校の青山です。円滑な議事進行ができるよう、皆様方のお力を借りながら進めてまいりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

議事に入る前に、運営委員会の進め方について、注意点がございます。

会議録の作成方法ですが、会議の発言内容をすべて記録する「全文筆記」方式で作成し、委員長の署名をもって議事録を確定します。そのため、発言する際には、挙手をして、委員長から指名されたあと、お名前をおっしゃってから発言をお願いします。よろしいでしょうか。

(各委員) ～「異議なし」～

○ (青山委員長)

では、そのように進めさせていただきます。

「2. 諮問 学校給食費の適正な水準について」

○ (青山委員長)

それでは早速、議事を進めてまいります。

次第の2、「諮問 学校給食費の適正な水準について」をお願いします。

○ (佐々木教育長)

石狩市学校給食センター運営委員会 委員長 青山司 様

下記の事項について、石狩市学校給食センター条例第8条第2項の規定に基づき、諮問いたします。

諮問理由

本市の学校給食費は、令和3年11月22日に貴委員会より答申を頂き、令和4年4月1日に現行の一食単価に改定いたしました。

この改定は、11年以上同一としていた学校給食費単価を食材費の高騰等の要因により値上げするものであり、また、以降の学校給食費単価についてはこの答申の付帯意見を踏まえ、改定後2年を目途に改定を検討するものであります。

この改定以降、世界的な社会情勢の動きや気象変動などによる資源価格の高騰や円安の進行により、様々な物価が急激に高騰する傾向となっております。

このような中、令和4年度及び令和5年度には、国の物価高騰対策の交付金を活用し、また、食材の選定や献立の工夫など可能な限り努力を行い、学校給食実施基準に準じた給食を提供してきております。

今後においてもこの傾向が続くことが想定され、現状の学校給食費単価では安定した充足率及び食品構成の維持、安心・安全な給食提供の継続が難しい状況となっております。

このことから、小学1年生から中学3年生まですべての区分において、物価上昇に対応した、学校給食費の適正な水準についてご審議頂きたく、貴委員会に諮問するものです。

○（青山委員長）慎んでお受けいたします。

○（高石センター長）

なお、教育長は公務の関係上、ここで退席させていただくことをご了承願います。

「3. 議事(1)協議事項①「学校給食費の適正な水準について」

○（青山委員長）

それでは次第の3「議事（1）協議事項」の①「学校給食費の適正な水準について」に関しまして、事務局から説明をお願いします。

○（西山主査）

それでは、私のほうから「①学校給食費の適正な水準について」に関してご説明いたします。1ページから3ページが参考資料、4ページと5ページが諮問資料となります。

まず、参考資料からご説明いたします。資料の1ページをご覧ください。

上段の表、「●これまでの給食費の改定状況」をご覧ください。3市村合併後の単価統一以降、平成26年の消費税増税分の改定をのぞき、物価動向に対する値上げは、平成22年の改定と、以後10年以上の期間を経たのちの令和4年の改定となります。

下段の表「●管内市町村給食費単価一覧」は、令和5年4月1日現在における、札幌市を含む現行の単価です。直近の石狩管内の動きは欄外に記載しておりますが、令和5年に当別町が給食費の改定をおこなっております。

続いて2ページをご覧ください。令和3年9月から令和5年9月までの、主な項目についての北海道地方の消費者物価指数の推移となります。

各項目では全体的に、円相場などの社会的情勢や気候変動の影響を受けていると思われるほか、野菜や果物など季節的な要因による上げ下げや、地域的要因も考えられます。

例としては、今年の春以降は鳥インフルエンザを要因とした鶏肉や卵の値上がり、猛暑による野菜・果物の上昇、飼料穀物の値上がりによる乳製品の上昇などが価格に反映されていると考えられます。

続いて3ページをご覧ください。左側の表は、小学校の低学年から高学年までと中学校の4区分の給食費単価に対する内訳を、主食・副食・牛乳と3つに分類し、それぞれが1食あたり何パーセントを占めているかを円グラフにしたものです。

令和5年度と昨年度、それと石狩給食センターが稼働した平成29年度とを比較したものです。

様々な食材費が上昇傾向にある中、給食メニュー作成上でのやりくりは主に副食費の中でおこなっております。牛乳は学校給食に欠かせない品目ですが、この牛乳の価格と、主食においても小麦の価格上昇により麺とパンの価格があがっており、副食費を圧迫してきていることとなります。

これまでも、栄養価はもちろんのこと、食にかかる地域の多様性や文化、魅力など食育の視点も考慮しながら、様々な努力を重ねてきておりますが、現在においては食材費がこのような推移をたどっており、非常に厳しい状況にあると感じております。

次に、諮問資料についてご説明します。

4ページをご覧ください。先程ございました諮問に関する資料の1枚目となりますが、下段の表「年単位 消費者物価指数（北海道地方・食料）」につきまして、2020年、令和2年がこの指数における基準となっており、この時点を100とした指数となっております。表右側に参考とありますが、例えば令和2年に100円だったものが、令和4年は106円、令和5年には114円となっているということになります。

なお、現行の給食費単価は、令和2年から3年の物価変動が平穏だった時期と、それ以前の過去10年間を参酌して設定した単価となっております。

上段の表「北海道の消費者物価指数（食料）の推移」は、月ごとの指数の折れ線グラフです。令和4年に入ったころから上昇基調が見え始め、令和2年を100として令和4年8月には105ポイント、12月には110ポイントを超え、令和5年9月には115ポイントを超えております。

再度、下段の表をご覧ください。令和5年度の指数について113.488%と記載しておりますが、これは令和5年1月から9月までの平均値を取ったものであり、10月から12月まででさらに物価上昇があれば、この数値より大きくなる可能性があります。

また、令和6年、7年につきましては、欄外2つめの※にありますように、これま

での長期に渡るデフレからの脱却、賃上げ等の国の方向性に示されている上昇率2%を引用したものであり、あくまで推測値となっております。

次に、5ページをご覧ください。こちらは諮問資料の2枚目になります。

上段の表「児童生徒1人あたりの単価」は、現行の給食費単価に、先ほどの対基準年変化率をかけたものが、変化率に基づく推測数値、単価となります。各年とも、左側がその推測単価、右側が現行単価との差額を示しています。

令和4、5年は実績の変化率をかけたもの、令和6、7年は推測の変化率をかけた単価です。

また、下段の表「児童生徒1人当たりの年間額」は、上段の単価に対して年間最大食数の195食をかけた年間額の目安となります。

5ページ上段の表をご覧ください。令和4年度から7年度の推測数値と、6年度と7年度の差額平均を、事務局として推測し得る範囲と考え、諮問資料としてお示しさせていただきましたので、委員会の皆様には、今後の学校給食費単価の適正な水準がどのあたりであるかをご審議いただきたいと存じます。

○（青山委員長）

只今、事務局から説明がありました。それぞれの資料から、物価の上昇傾向など色々なことが読み取れるかと思えます。このことについて、本日は栄養士、栄養教諭の皆様もご出席されておりますので、給食の献立作成で工夫、やりくりされていることや、食育、児童生徒の様子などをお聞かせいただければと思います。

○（阿部栄養教諭）

日頃の工夫や感じていることをお話しさせていただきます。資料の3ページにございましたが、ごはん・パン・麺等の主食や牛乳は量が決められているので、主に副食で調整している現状にあります。全体的に値上がりが進んでおり、副食にあてられる費用が少なくなっております。具体的に高騰している食材としては、まず魚が挙げられます。魚は比較的残食が多くなってしまいますので、色々な種類や味付けを選定したいところなのですが、獲れる魚の量も使える種類も少なくなっているのが現状であり、価格も上がってきているため選定には苦労しています。仕入れ業者からの見積もりでも、国産が無く、外国産の見積りが挙がってくるケースも増えてきています。魚の中でも鮭は残食が少ないのですが、価格がかなり高騰しており、他の献立に影響してしまうため、今年は鮭を選定できないことがありました。

肉も高騰しております。特に今年は鳥インフルエンザの影響で鶏肉が高騰し、鶏も肉を比較的安価な鶏むね肉に変更したこともありました。

また、竹輪やさつま揚げといった、魚を使った練り製品や、ベーコンやハムといった加工肉も高騰しております。価格の高い食材を減らすことは可能に見えますが、必要な栄養素の維持について配慮しなければならないため、いかに栄養素をキープしながら他の食材で補えるか、という工夫をしています。たんぱく質をいかに維持する

か、限界を迎えつつある状況です。

現在は基本的に国産の食材を選定しておりますが、現行の給食費のままですと提供が難しくなってきましたので、外国産を使用せざるを得なくなってくるのではないかと感じております。私からは以上です。

○（中村栄養教諭）

阿部先生からのお話で魚や肉のことに触れられていましたが、野菜も例外ではありません。今年度、私が9月の献立を担当しましたが、本来なら野菜が安くなる時期に、高温障害など気候の影響があり、旬の野菜でも価格が高めの水準でした。出費をなるべく抑えるために、いしかりデーなどの特別な日のみ石狩産の野菜を活用し、他の日は地場産以外の価格が安めのものへ切り替えました。

主食につきましても、小麦が値上がりしており、通常であればパンの日になるところを、今年は計6回ごはんを充てています。パンが好きだという子どもが多くいるので、できればパンの回数を減らしたくはないとは思っています。また、パンは成型にもお金がかかるので、成型代の安い形にしてもらうようにパン業者に頼んだりもしています。私からは以上です。

○（牧野栄養教諭）

学校給食は実際に見て体験、体感してもらえる食育教材であります。現状のままでは、石狩産食材を使用したいしかりデーの実施も厳しくなり、地元食材を体感する機会が減ってしまうのではないかと危惧しております。いしかりデーにおける子どもたちの様子を見ると、浜益牛がメニューにある日には献立表を見て心待ちにしている様子でしたし、美味しかったと声をかけてくれました。10月のいしかりデーでは、石狩産のブロッコリーを提供したところ、普段は野菜の食べ残しがある学級でも、食べ残さずにきれいに食べてくれました。いしかりデーのような取り組みを今後も続けていくことが、給食を通じた食育を進める上で大切であると考えております。先日も、子どもから次のいしかりデーはいつですか、と声をかけられるなど、子どもたちにも定着して楽しみにしてくれている様子が見受けられます。前段でも触れましたが、このままでは、今後栄養価が満たせなくなる可能性があるのはもとより、使用食材の幅が狭くなり、行事食など子どもたちの楽しみが減ってしまうことが懸念されます。

食育の授業においても給食食材を活用する場面が多くあることから、給食の内容を充実させていくことが、子どもたちの食への興味関心や、石狩の食についての学習を深めることに繋がりますので、やはり現状のままでは献立作成に厳しさを感じるころです。私からは以上です。

○（宮原栄養士）

先程、資料の中で消費者物価指数についてお示ししましたが、当センターが給食で使用している食材には、年度内を通して同じ金額になるように契約しているものがあ

るのですが、令和5年の価格の上がり幅を前年と比べたところ、魚系のおかずでは125.5%、ねり製品では120.74%、肉系のおかずでは115.24%の上昇となっており、かなりの値上がりとなっています。その他、素材系の食材では114.15%、油類は118.01%、調味料系では106.55%の上昇となっています。特に一番高くなっている食材は粉チーズで143.8%の上昇でした。

どの食材をみても、値下がりしているものはなく、年度で契約している食材全体でみると110.24%の上昇となっています。この食材費の高騰が続くかぎり、献立の制約や、いしかりデー等の行事食やデザートを削るということにつながりかねません。そうなると子どもたちの給食の楽しみが減り、食への興味や学びが失われることに繋がりにかねません。

○（青山委員長）

ありがとうございました。限られた給食費の中で、色々なやりくりをされていることがよくわかりました。それでは委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。

○（岩崎委員）

諮問資料の5ページを拝見すると、物価が上がっているので給食費の水準も上げざるを得ないのだろうなどは思っています。どのあたりが妥当なのかが難しいところですが、保護者の負担を考えた上で妥当なところに落ち着けばとは思っています。年額が大きくなると未納が増える心配もあるので、その上で子どもたちの栄養価も保てる水準が良いと考えます。

○（丸山委員）

自分の世帯の買い物をする時にも、物価が上がっていると感じている中で、この給食費で良くやりくりして子どもたちに給食を作ってくれているなど感じていますので、給食費の水準を上げることには私も含めて、今の世の中の動机的にはいたし方ないと感じると同時に、どの水準が相応しいのかを考えることになると思いますが、子どもたちの栄養価を維持することと、私の仕事柄、食育も大切と考えますので、いかに興味を持って食べてもらうかが必要と思います。家で食事をあまりとれていない子どももいるので、学校で興味を持って食事をとってもらうことが必要であると感じました。

○（梅木委員）

私は毎日給食をいただいておりますが、石狩市の給食はとても美味しくて、生徒は勿論、私も楽しみにしております。値上げはしなければならない状況に来ていると思いますので、具体的にどのあたりが妥当なのか、話し合いを進めていければと思います。

○（中村委員）

自分の子どもも献立表を見ながら、毎日の給食を楽しみにしています。物価が上昇しているのは皆様ご承知のとおりだと思いますので、子どもたちの楽しみを維持しつつ、適正な価格を探っていければと思います。今の時点で色々と対策はされていると思いますが、給食の質を落とさずに、それに見合った価格になれば良いと思います。

○（高橋委員）

私も、この物価の数値を見ていると値上げはやむを得ないかと思っています。当然、生徒にとっては栄養価を維持することは大切だと思います。消費者物価指数を目で追ってみると、令和4年4月の時点で一番指数が低いのが肉、高いのが魚介類で10ポイント位の差だったところが、9月の時点では20ポイントの差となっており、このような状況の中での給食運営は非常に大変であると思っています。鳥インフルエンザの影響で卵が入手困難な時期がありましたが、この価格が今後落ち着いていくのかなど、数値の変動ぶりを見るとなかなか読みづらいので、給食費を決める際には、事務職員としての立場から言うと少しでも家庭の負担を減らしたいとは思いますが、良く審議して決めなければいけないと思っています。

○（佐藤委員）

価格は上げなければいけないのだろうとは思いますが、1ページ目の資料を見ると石狩市は管内では低い方ですので、むしろもう少し上げてもいいのではと個人的には感じます。いしかりデーについて質問があるのですが、普段あまりブロッコリーを食べられない子どもが、石狩産のブロッコリーは食べることができたというのは何か違いがあるのでしょうか。石狩産は甘いだとか、何か理由があればお聞きしたいのですが。

○（牧野栄養教諭）

今回は、生産者の写真を載せたポスターなどで、生産者の顔が見えるようにしたところ、子どもたちもより多く食べてくれたのではないかと感じています。

○（佐藤委員）

私は小中学校と石狩で育ち、給食が美味しかったというイメージしか無いのですが、食への興味や学びがどこから生まれるものかと思いながら話を聞いていました。生産者の顔が見えるようにするというのはとても良いことだと感じました。

○（多田委員）

家庭で食事を作る際、スーパーなどでもとても値段が上がっているので、何を作ればよいのかと思うのですが、給食はありがたい存在で、うちの子もとてもよく食べております。ひとつお尋ねしたいのですが、給食費を上げて苦情などが来たことはある

のでしょうか。

○（西山主査）

直接、苦情が寄せられたことはございません。

○（多田委員）

保護者の皆様も、物価が上がっていることは十分承知のことだと思いますし、お子さんからは家庭にも給食が美味しいという声があがってきていることと思いますので、給食費を上げて皆様にはわかっていただけるかと思っておりますので、私は値上げには賛成します。

○（石田委員）

私も給食費の値上げには賛成です。食育推進計画の中でも地産地消と言われていますが、いしかりデーとしてぎりぎり献立が立てられるかどうかという現状は改善していく必要があると思います。ただ、色々な物の物価が上がって、家庭の生活が大変になっている現状の中、適切な水準がどこであるか議論する必要があると思います。

また、乳糖不耐症のお子さんへのアレルギー対応において、牛乳を麦茶で代替していることについて、栄養価が不足していくのではないかと思いますので、今後検討していく余地があるのではないかと考えます。

○（青山委員長）

委員の皆様から感想を含め、学校での取り組みにも触れながら、物価や栄養価、質、子どもたちが楽しみにしていること、それからいしかりデーや食育など学校での取り組みなどについてご意見をいただいたところですが、アレルギーのことも含めて、事務局からご意見があればお伺いします。

○（宮原栄養士）

アレルギーにつきましては、栄養価が一番足りなくなる要素としては、牛乳を麦茶に変えることによって、エネルギーやカルシウムが摂りにくくなるという懸念はあります。他にどのように補える方法があるか、家庭でどのような食事を作れば補えるかななどを普及させていく必要があるのではないかと考えておりますが、まだそこまでは至っていないのが現状です。

○（高石センター長）

あらためて2点ご説明させていただきます。1点目は、皆様実生活でも物価上昇の傾向は実感されていて、値上げもやむなしとの感覚をお持ちとは思いますが、5ページの諮問資料にお示ししております給食費の適正な水準についてでございます。令和4年から令和7年まで、また6年と7年との差額平均について、事務局として考え得

る適正な範囲として参考にお示ししております。国ではデフレの解消として賃上げと組み合わせて物価上昇の基調を考えておりますが、令和6年で国が示しているプラス2%という数値はあくまで推測の域ですので、現実的にこの数値となるかは、まだわからない部分です。令和5年の数値は、これまでの9か月間の実績値と残り3か月の推定値です。物価の下げ要素があまり見当たらない中で、残り3か月がやや上昇すると仮定した上でお示した令和5年度の数値は、保護者の負担感や食育の観点も含めた栄養教諭の努力も考慮すると、今後の参考とする数値としては一定程度、現実的な数値なのではないかと事務局としては考えております。また、適切な水準を検討するタイミングにつきまして、以前にいただきました答申では2年に1度検討するとのことでしたが、現在の社会情勢の中では、少なくとも年1回、場合によってはその都度適宜、皆様にお示ししながら検討する機会を設けることが適切であると考えております。

2点目、食育の視点についてですが、給食センターが仕入れる食材を安く抑えるということは、保護者からいただいた給食費の中で給食を提供するためには大事な視点です。しかし現状としては、生鮮食品も加工食品も、全体的に物価が上昇しております。いしかりデーにおいても、野菜はブランド化が少しずつ進んでいるのは喜ばしいことですが、その分価格が高くなってきています。これまで仕入れ価格を抑えるために、一部の食材では年間契約をしておりましたが、調味料や魚の加工品などは急激な物価高騰により先が見通せなくなっており、業者からは月単位の契約にしてほしいと言われているケースもあります。学校給食の食材は、かなりの部分を加工業者や加工品に頼っております。牛乳は給食から外せない食材ですが、資料にもございますように給食費のかなりの割合を占めております。パンや麺、加工品の仕入れ業者など、学校給食を取り巻く様々な事業者が、ここ数年のコロナ禍や物価高騰などの社会変動の中、頑張っただけ対応してくださっていると認識しておりますので、価格交渉などもやはり限界があると感じております。

献立については栄養教諭が苦勞しながら、子どもたちのことを考えて栄養バランスを考慮して作成しております。食育を犠牲にしてこれ以上のやりくりをするということは、非常に苦しい選択であると考えております。当然、保護者の負担感は配慮させていただき事項でございますが、学校給食の理念である食育なども踏まえて運営委員会ではご議論いただきたいと思います。

○（百々瀬副委員長）

委員の皆様と、事務局からのお話を聞いていましたが、やはり値上げは仕方ないと思いますし、むしろそうしなければならないと思います。保護者の負担は増えますので困らない家庭は無いかもしれませんが、値上げをしても子どもたちにきちんとした給食を提供した方が良く、とご理解いただけるのではないかと思います。食育の観点から、子どもたちに提供したいと思える献立を栄養教諭の皆様は考えてくださっていると思いますが、現状のままですと、価格上、出せるものを出すという方向に切り

替えざるを得ないことになると、給食というよりも、ただ単にお腹を満たすための食べ物を出すことが目的になってしまいます。そうではなく、食べたものが体を作る、食育の教材であると考え、ある程度目的に沿ったものを提供できるような献立にしてほしいと思います。そして肝心なことは給食費をどのあたりにするかということですが、令和5年10月以降のこれから先のことはなかなか予想が難しいので、適切な給食費の水準としては、現時点の9月時点の水準が妥当ではないかと考えます。

○（青山委員長）

ありがとうございました。皆様からいただいた意見から、給食費の水準が上がるのはやむを得ないところかと考えますが、子どもたちと家庭のことを考えながら議論する必要があります。他に何かございませんでしょうか。

○（百々瀬副委員長）

先程、石田委員からアレルギー対応にかかる栄養不足の補充についてご意見がありました。学校給食費だけで子どもたちの栄養を賄えるのは理想ですが、給食だけではなく家庭での食事においても賄う必要があるのかなと思います。アレルギーのあるお子さんについては、不足している部分をご家庭で、という方法も必要かと思えます。宮原栄養士からもありましたが、全てのお子さんを給食だけでカバーするのは難しいですし、アレルギーのお子さんだけに給食費を多く使うこともできませんので、家庭でのご協力をお願いすることによって、給食費の維持にも繋がると思えます。

○（石田委員）

アレルギー対応における牛乳の代替については、豆乳で代替することはできませんでしょうか。愛知県に牛乳の代替で豆乳を提供している自治体がありますが、麦茶で代替すると栄養素の充足率が低くなってしまいます。一般的に、学校が休みの日は家庭でできる対応が限られてくるため、カルシウムの摂取が足りないという結果になりかねません。その中で給食が果たす役割は大きく、アレルギーの子どもに対しても大きいと言えます。豆乳で代替したから十分に補えるというわけではありませんが、実際に豆乳で代替している自治体は北海道にもあります。家庭への指導も大切ですが、それだけでは補えませんし、乳糖不耐症の子どもたちは実際に栄養素が不足しておりますので、今後ご検討いただければと思います。

○（青山委員長）

本日、事務局から諮問を受けましたので、当委員会として答申する必要がありますが、ご意見が出尽くしたようですので、皆様のご意見を尊重して考えると、令和5年度の今現在の水準が適切ではないかと考えます。本日のご意見をもとに答申案を作成することになりますが、作成につきましては委員長である私に一任いただいでよろしいでしょうか。

(各委員) ~ 「異議なし」 ~

○ (青山委員長)

それでは、私の方で答申案をまとめます。答申案はいつまでに提出することになりますか？

○ (西山主査)

次回、第2回目の運営委員会の開催を12月下旬頃に予定しており、そこで答申案をご議論いただきたいと思いますと考えております。

○ (青山委員長)

わかりました。それまでに答申案をまとめ、皆様にご確認いただきたいと思います。それでは次の議題に進みます。

「3. 議事(2) 報告事項①「学校給食費の収納状況について」

○ (青山委員長)

それでは、「3. 議事(2) 報告事項①「学校給食費の収納状況について」並びに②「給食関係事業の実施状況について」、事務局から一括して報告をお願いします。

○ (齊藤主任)

それでは、私のほうから「(2) 報告事項の①学校給食費の収納状況について」をご報告いたします。6ページをご覧ください。ここには令和2年度から令和4年度までの3年間の学校給食費の収納状況を載せています。左から2列目の調定額とは、その年度当初の児童生徒の人数により、これから給食費がいくら入ってくるか見込額を算出したものです。一番下の令和4年度の表をご覧ください。現年度分につきましては、調定額約2億5,620万円に対し、収入済額約2億4,993万円で、収納率は前年度より0.1%減の97.6%となりました。

次に滞納繰越とは、会計年度は1年ごとに決算しますが、年度内に支払いがされず、未納となった給食費について過去の年度分として会計上繰り越したものを指しますが、調定額約2,770万円に対し、収入済額約176万円で、収納率は前年度より4.3%減の6.4%となりました。

不納欠損額とは、未納となっている市の債権のうち、徴収の見通しが立たないなどの理由で未収金から除くことをいいますが、前年度より約483万円増の約638万円となりました。

全体では、調定額約2億8,390万円に対し、収入済額約2億5,170万円で、収納率は前年度より0.8%減の88.7%となりました。

収納率が下がった要因としましては、新型コロナウイルス感染症の影響や景気の悪

化等、また物価の上昇等により世帯の経済状況が圧迫されていることなどが考えられます。私からは以上です。

「3. 議事(2) 報告事項②「給食関係事業の実施状況について」

○(宮原栄養士)

給食関係事業の実施状況についてご報告します。資料7ページをご覧ください。こちらにはアレルギー対応給食の実施状況を記載しております。石狩市学校給食センターで行っているアレルギーの対応といたしましては、個別のアレルギー明示献立表の配付、牛乳の代替として麦茶を提供、牛乳や卵が含まれる加工品でセンターでの調理を必要としない加工品に限る代替食の提供、センターで調理する汁物などの温食缶に卵が入った際の除去食をしております。資料には令和3年度から今年度までの当センターにおけるアレルギー対応給食の内容を記載しております。

今年度は給食費を抑えるためにデザート等の添付類を控えたほか、鳥インフルエンザの影響で卵が品薄になったため、例年よりも対応給食の実施回数が減っております。資料9ページには、実際にアレルギー対応給食を提供する際の流れが記載されております。栄養教諭、栄養士、調理員はもちろんのこと、学校現場の職員の方々など多くの方で確認をし、対象の児童生徒に確実に提供されるようにしています。

続きまして、市民向け食育講座の実施状況について報告します。資料10ページをご覧ください。石狩市学校給食センターでは市民への食育を推進するために食育に関する講話と学校給食の試食会を組み合わせた食育講座として「大人のプレミアム食育講座」を行っております。こちらで食育講話の内容を決めて、参加者を募る個人向け講座と、5名以上の団体から依頼を受けて実施する団体向け講座の2パターンで開催しております。

食育講話の内容としては「感染症予防にもなる!? 教えます学校給食流手洗い」というテーマで、手の汚れに見立てたジェルを塗り込んで、手洗いの際の汚れの残りを手洗いチェッカーというもので確認してもらうような内容や、「減塩のカギ 給食のだしを味わおう」というテーマで、色々なだしを用意して何由来のだしであるか当ててもらった内容などを行ったりしています。実施状況や参加人数は資料をご覧ください。

続きまして資料11ページをご覧ください。いしかりデーの実施状況を報告いたします。

「いしかりデー」という6月から10月にかけて1年で計5回、石狩の伝統的な食事や普段よりも多くの地場産物を使用した給食を提供する日があります。

今年度の実施献立は資料の通りですが、特に今年の10月に行われたいしかりデーでは、今年の注目食材としていた「ブロッコリー」の農家さんをお招きして、花川小学校の子ども達に食育講話をしていただきました。この日は「ゆでブロッコリー」を提供したのですが、子どもたちはあっという間に食べきってしまい大変好評でした。

次のページには、農家さんの方の食育講話の様子や、各教室に掲示してもらうポスターを載せております。

○（青山委員長）

ただ今、事務局から、学校給食費の収納状況からアレルギー対応、市民向け食育講座、いしかりデーについて報告がありました。一括してご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

（各委員）～「特になし」～

○（青山委員長）

「3. 議事の（1）協議事項、（2）報告事項」全般について、何かございませんか？

（各委員）～「特になし」～

○（青山委員長）

アレルギーのことについてもご意見をいただきましたが、学校現場の教員としては、いしかりデーを始め、食育はとても重要な観点と考えております。ブロッコリーの話もありましたが、子どもたちにブロッコリーのPRをした後だと、いつもよりたくさん食べていました。子どもたちが食について何か学んだあとに考えながら食べるということは、とても良い取り組みとっております。当校では校長室の前に掲示板があり献立表を掲示しているのですが、子どもたちが良く見に来て、給食が楽しみだと言っております。献立にも様々な工夫がされており、良い取り組みだと感じております。

あらためて、本日いただいた意見を含めて、答申案の作成について、委員長の私に一任いただいでよろしいでしょうか。

（各委員）～「異議なし」～

○（青山委員長）

ありがとうございます。

「4. その他」

○（青山委員長）

それでは4. その他について、事務局から何かございますでしょうか。

○（高石センター長）

石狩市学校給食センターでは、1日約4,800食、厚田学校給食センターでは1日約200弱、合計約5,000食を提供しています。様々なアクシデントにも見舞

われており、毎日提供することの難しさを感じているところです。何点か報道で取り上げていただいていることもあり、またいしかりデーにおいて、厚田学校給食センターで停電のため中止となったこともあります。お子さまや保護者の皆様にはご心配とご迷惑をおかけいたしましたので、数点ご報告させていただきます。

厚田学校給食センターの停電については、10月6日に、前日から雷雨を伴う激しい降雨があり、未明に停電となってしまいました。応急対応をしましたが、復旧したのが12時30分頃となり、当日は給食の提供ができず、厚田区・浜益区においては牛乳を届け、一部の学校では非常食を食べました。当日はいしかりデーでしたので残念でしたが、11月のメニューで何とか調整して再度浜益牛を提供できる予定です。しかしながら、児童生徒、保護者、学校などにはご迷惑をおかけいたしましたので、お詫びをさせていただいたところです。

また、今年に入って米飯関係のトラブルが続いております。6月30日に当センターの連続炊飯器、これはベルトコンベアで釜を流しながら炊飯するシステムなのですが、このコンベアの故障により、故障発生当日は食パンで対応させていただき、翌3日間は梅・こんぶのおにぎりに対応しました。これも給食費を圧迫する原因になってしまいましたが、アレルギーのことも含め、周知とお詫びをさせていただきました。

9月に入り、中学校の生徒1名のご飯数粒に黒い付着物がついておりました。当日2時頃に付着物をセンターに届けていただき、大至急調査に出すとともに、洗米機のメーカーに調査を依頼しました。当日は調理委託業者の方で徹底的な洗浄を行い、翌日の洗米時には調理員を増やして目視の強化をしたうえ問題のないことを確認し、通常どおり給食を提供いたしました。調査結果が10月17日に届き、断定はできないものの成分は判明し、物質的にはおそらく米由来のもので、洗米の過程による汚れであると結論づけているところです。健康被害はありませんでしたが、学校にご迷惑をおかけしましたし、取り上げていただいた報道機関もございました。様々なトラブルはございますが、経験を積み重ねながら、給食を止めないことを使命として、職員、調理委託会社含めて頑張っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○（宮原栄養士）

先程ご案内しました、「大人のプレミアム食育講座」について、個人向けの講座を1か月に1回程度実施しております。団体向けの講座は要請を受けての実施ですが、ご案内をお配りしますのでよろしければご参加ください。

○（西山主査）

第2回目の運営委員会の開催を予定しており、12月下旬と考えております。内容としては、本日の諮問についての答申案をいただくことと、試食会についてなどを想定しております。つきましては、別途日程調整をさせていただきたく、よろしくお願い致します。

○（青山委員長）

以上を持ちまして、令和5年度第1回学校給食センター運営委員会を閉会します。
皆様お疲れ様でした。

○（事務局）

ありがとうございました。

上記会議の記録に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和5年12月8日

石狩市学校給食センター運営委員会

委員長 青山 司